

## I 日本語と英語の違い

日本語は英語とは全く異質の言語ですから、タテのものをヨコに変換しようとするのはしよせん無理だと思ってください。理解を助ける意味で、まず最初に、二つのことばの違いをおおまかに見てみましょう。軽い肩慣らしのつもりで目を通してください。

### 1 次の例文で、主語の扱いに注目してください。

おなかが空いた。	I am hungry.
頭が痛い。	I have a headache.
時間がない。	I have no time. / I am busy.
お茶がほしい。	I want a cup of tea.
リンゴは好き？	Do you like apples?
この本をあげよう。	I will give this book to you.

日本語は、その場のありさまをそのまま描写し、センテンスごとに「わたし」や「あなた」を明示しないほうが自然です。ことさら自分を主張しなくても心が通じあうのが日本語ですが、まず自分のアイデンティティーをはっきりさせ、「わたし」の判断や意志を起点としてコミュニケーションが成り立つのが英語です。英語人と日本人の mentality (ものの考え方) の違いをここに見るような気がします。

川端康成の小説を英語に翻訳して世界に紹介したサイデンス・テッカーの英文と原文を比べてみますと、この違いがよく分かります。巻末の付録に、『雪国』と『伊豆の踊子』の一部を和英対比で引用しておきますので、読み比べながらその違いを味わってください。

### 2 日本語は敬語の多いことばで、その使い方に外国人は悩まされるようです。

日本語の敬語は、身分の上下・主従といった封建的なタテ社会の中で相手を敬ったり、自分を卑下したりする風習の中で根づいたのではないかと思います。英語にも敬称はいろいろありますが、日本語の敬語にあたることば使いはありません。英語では、自分や相手のことは、地位・年齢などに関係なく人称代名詞を用います。「おっしゃる」「召しあがる」「差しあげる」などは、say, cat, giveで表しますし、ていねいさを表す意味で名詞につける「お」「ご」の接辞も英語にはありません。

### 3 英語のていねいな表現 (polite expression) は、主として、ものを聞いたり頼んだりして、相手に負担をかける場合に用いられます。そのていねいさにも度合いがありますが、この違いは第3部の日常語・慣用句集で一般的な言い方を例示しましょう。

一方、敬語感覚に慣れた日本人は、なかば命令調の言い方に「惑い」を感じる場合があります。たとえば、次のような表現で、please を省くとぞんざいな印象を与えるのではないかと

気になりがちですが、これは、相手に対する思いやりや好意のアドバイスで、相手に負担をかけるわけではありませんで please は不要。

Thank you. をどちらが言うべきかによって、please をつけるかどうか区別するのが英語の論理性と感覚です。

Mind/Watch your step. (足元に気をつけてください)

Help yourself. (好きなものを取って召し上がってください)

Have a good time. /Enjoy yourself. (ゆっくり楽しんでください)

Take it easy. (気楽になさってください)

Don't worry. (気にしないでください)

### 4 「前置詞3年、冠詞8年」は、冠詞の用法の難しさを示唆する譬えですが、本場の英国人でも正誤の答えに窮することがあります。冠詞の間違いで誤解が生じたり、意思の疎通を欠くことはありませんから、基本的な法則だけ間違えないように注意すればじゅうぶんです。

一 会話や文中に初めて現れた名詞には不定冠詞の a/an、すでに現れた名詞には定冠詞の the を使うのがルール。ただし、おたがいに何を指しているのかが分かっている場合には初めから the でよい。

一 学校・教会・病院などへ行くのが、学習・礼拝・医療目的の場合には無冠詞。

一 新聞・雑誌・河川・海洋の名称には the をつける。

一 序数には the が必要。